

いつもご紹介頂きありがとうございます。

昨年もまた院内外の先生のご高配を賜り、またスタッフの増員、成長により成績もより高いレベルで安定させることができました。胸部領域の心臓大血管手術は今年も200例以上となり、緊急手術も積極的に受け入れさせていただきました。手術成績につきまして詳細な検討をいたしましたので、「annual report」としてご報告させていただきます。

例年に引き続き良好な手術成績が維持できていると考えております。単独冠動脈バイパス手術は増加しており、単独であればほぼすべて心拍動下人工心肺非使用で施行して早期開存率も良好で、再開胸止血術は一例もなし、など、良好な成績を収めております。また今年はいよいよ積極的に大動脈解離症例に対するステントグラフト内挿術を適応し、多くの経験を得ることができました。

まずは2019年の手術成績をご報告させていただきます。お気づきの点がございましたら、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。



心臓血管外科 部長 小林豊

症例数		症例数	
I 冠動脈バイパス術	45	III 胸部大動脈瘤(真性or慢性解離)	19
A 単独(オフポンプ)	25	IV 急性大動脈解離	46
B 単独(オンポンプ)	1	V その他開心術(心膜切除、左室形成、心臓腫瘍など)	20
1 +弁膜症		VI 先天性心疾患	0
2 大動脈弁	8	VII ステントグラフト	132
3 僧帽弁	0	A 胸部ステントグラフト	60
4 三尖弁	0	B 腹部ステントグラフト	72
5 その他(二弁、大血管など)	8	VIII 腹部大動脈瘤人工血管置換術	8
II 弁膜症	31	IX 末梢血管手術	36
A 大動脈弁	11	X 透析シャント	52
B 僧帽弁	3	XI その他	10
C 三尖弁	1		
D 連合弁膜症(2弁以上)	15		
E Bentall	0		
F 大血管	1		
		開心術、大血管 計	218
		総手術数	396

冠動脈バイパス手術

単独冠動脈バイパス術は緊急のショック症例一例を除いてoff pump(人工心肺非使用)で対応させていただきました。心機能や血管性状が悪い症例も多く、人工心肺を使用したバイパスも必要に応じて選択しておりますが、術前IABP挿入など術式を工夫してoff pumpで施行可能でありました。また、術後早期グラフト開存も良好で、手術の質も最良を維持できました。また、今年には特に、弁膜症や大血管との複合手術としての冠動脈バイパス術が増加しております。腎機能温存や長期成績を考慮してバイパス術を選択いただければ幸いです。

弁膜症手術

大動脈弁狭窄症および連合弁膜症が多く、ご高齢の患者様にも積極的かつ安全に弁膜症手術を施行いたしました。また僧帽弁手術の多くは自己弁を温存した形成術が可能でありました。患者様の希望に応じて小切開手術にも対応させていただきます。全国的には弁膜症に対する手術治療は死亡率4%と横ばいですが、昨年当院での死亡は認めませんでした。

胸部大動脈瘤手術

性大動脈解離は今年も積極的に受け入れさせていただきました。以前は保存的加療がメインでありましたtype B解離に対しても症例の積み重ねにより、さらに安全に長期成績改善を目的とした早期治療介入が可能でありました。また急性大動脈解離(type A)手術の院内死亡率は2例(術前心肺停止1例、術前ショック、臓器還流障害1例)のみ4.3%(全国平均10~15%)であり、世界的にもトップレベルの救命率とすることができました。当院ではハイリスク症例やショック状態からでも積極的に救命に取り組んでおり、非常に良好な成績と思われれます。また、以前はステントグラフトが困難であると考えられていた慢性大動脈解離症例に対しても、開胸手術とのハイブリッド手術を行うことにより、低侵襲に治療可能となりました。

その他心臓大血管手術

急性心筋梗塞合併症の手術は今年は少なく、心内腫瘍（左房粘液腫）が増えておりました。また、肺梗塞は一例のみでありましたが、ハイリスクな状態からでも救命しえました。これまでの成績からも肺梗塞に対しては当科では積極的に手術適応としております。お気軽にご相談いただければ幸いです。

腹部大動脈瘤手術

開腹手術、ステントグラフトともに良好な成績で、待機的手術においては院内死亡を認めませんでした。腹部大動脈瘤破裂に対しても積極的にステントグラフトを導入することにより16例の破裂症例で院内死亡は術前心肺停止の2例（12.5%）のみでありました。一般的には30%を超える死亡率である疾患であり、良好な成績と考えております。昨年も緊急症例に対しては全例ステントグラフトを適応することにより高い救命率を維持することができました。今年は透視装置とCT装置のハイブリッドERが完成いたしましたので、より多くの症例に救命の可能性を見出せると考えております。

末梢血管手術

透析シャントや重症下肢虚血に対しても積極的に取り組みました。シャント作成や末梢血管を専門としている医師をチームに招聘することで、より専門的な治療を行うことができるようになりました。また、他院からのシャントトラブルにも積極的に緊急受け入れとさせていただきます。

手術外活動

Wet labo

実際の豚の心臓を使用して手術トレーニングを不定期であります。数回開催しております。現在心臓血管外科専門医取得においてoff the job training（臨床外教育）が義務化されており、学会認定専門医教育基幹施設である当科で行ったwet laboに関しては正式な受講証明書を発行しております。

学術活動

当科での経験や実績を各学会に発表、討論し、多くの新しい知見を得ることができました。若手医師にも学術トレーニングを行い、積極的に学会や研究会で当科の経験を発信いたしました。私自身も学会やランチョンセミナー、シンポジウムなどでの発表を経て多くの経験や出会いを得ることができました。

学会発表（研究会・講演会除く）

2019/5/23	2019/5/24
第47回 日本血管外科学会 学術総会 名古屋 破裂性腹部大動脈瘤に対するEVARプロトコール EVAR firstからall EVAR 小林豊 川上敦司 白木宏長 森田英夫	第47回 日本血管外科学会 学術総会 名古屋 右鎖骨下動脈瘤と感染性心内膜炎に対する同時手術 川上敦司 小林豊 白木宏長 森田英夫
2019/5/24 第47回 日本血管外科学会 学術総会 名古屋 胸部大血管術後の心房細動に対する塩酸ランジオロールの予防効果の検討 小林豊	2019/6/22 第127回 日本循環器学会 近畿地方会 大阪 経皮的に右腕頭動脈に挿入された透析用カテーテルに対するBailout 白木宏長 小林豊 川上敦司 森田英夫
2019/11/30 第128回日本循環器学会 近畿地方会 大阪 術中冠動脈造影を併施した巨大冠動脈瘤の一例 森田英夫 小林豊 川上敦司 白木宏長	2019/10/31 第72回 日本胸部外科学会 学術総会 京都 The performance of Alpha Thoracic proximal stent graft in the arch 小林豊

総括

昨年も多くの症例の経験をいただき、また若い医師の加入もあり手術の質も維持、向上することができました。

ご紹介元の先生方の的確な判断とご紹介に感謝しております。

また麻酔科、技師、看護師、リハビリスタッフなど、各分野のプロフェッショナルが高い目標をもって対応している結果でもあります。

学術的には学会のランチョンセミナーや大きなシンポジウムなどで定期的に発表する機会に恵まれ、新たな知見や出会いを得ることができました。しかしながら昨年は論文発表がありませんでした。症例も蓄積されてきており、症例報告のみならず、まとまった成績を論文として発表できるよう努力させていただきます。

来年度も今後もより重症な患者様に、より高いレベルの治療を提供できるよう、日々の診療に邁進していきたいと思っております。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

緊急手術に関しましても24時間365日対応しておりますため、お気軽にお声をおかけください。